

## 第2章

# 本年度の取り組み

## 第1節 中学1年生

### 生き方を探るⅠ ～出会いから自分の進む道を考えよう～

仲 田 恵 子・渡 辺 武 志  
前 潟 誠・杉 本 雅 子  
竹 内 史 央

**【抄録】** 中学1年生の総合人間科は大テーマに「生き方を探るⅠ」サブテーマに「出会いから自分の進む道を考えよう」を設定して個人研究に取り組み、調査研究のための様々なスキルの基本をこの一年間で学ぶことを目指した。保護者、教育実習生、高校3年生、フィールドワークで訪問した専門家などへのインタビューを通して様々な生き方に触れ、より広い視野で自分の生き方について能動的に考える力を身につけ、未来を模索する上で参考にするように指導した。

**【キーワード】** 生き方 個人研究 フィールドワーク 職業選択 探究する力 キャリア 基礎力 インタビュー マナー

### 1. 学習のねらい

中学1年生にとって初めての総合人間科の授業は、自分で課題を設定し主体的に研究活動をする、生涯学習の第一歩となるものである。今後6年間で積み上げていく様々なスキルの基本をこの一年間で学ぶことをねらいとしている。

学年の大テーマとして「生き方を探るⅠ」、サブテーマとして「出会いから自分の進む道を考えよう」を設定した。生徒の活動の目標としたのは以下の4点である。

- ①身近な人から初対面の人まで、様々な人との対話から、多様な考えがあることを認識させる。
- ②自分が興味・関心のある生き方、或いは職業の人にインタビューを行い、未来を模索する上で参考にし、生き方、職業を深く理解する姿勢を身につけさせる。
- ③6年間に及ぶ総合人間科の学習に必要とされる基本的な能力（メモの取り方、調べ方、訪問依頼の方法、質問の仕方、手紙の書き方、まとめ方、発表の方法など）を身につけさせる。
- ④生徒が興味関心のあることについて筋道を立てて探究する力をつけさせる。



研究テーマと希望する訪問先について  
小グループでの情報交換会

### 2. 授業の取り組み

総合人間科の学習に必要とされる基本的な能力を身につける学習は全体で行うが、研究は個人レベルで行い、生徒一人一人が自分の研究テーマを設定して取り組むので、その段階では教員は必要に応じて適切なサポートをした。前期の学習では、インタビューの方法、メモの取り方、手紙やレポートの書き方、発表の仕方を学習した。後期はフィールドワーク、研究発表会、研究集録の作成などの活動を通して、研究の方法、プレゼンテーションの方法、自分の研究のまとめ方を学習した。

## 【一年間の授業日程——2013年度 中学1年生 総合人間科 学習の軌跡】

回	月 日	学習内容
第1回	4月15日	総合人間科オリエンテーション、保護者へのインタビューの準備
第2回	4月17日	保護者へのインタビュー、インタビューのまとめ
第3回	4月25日	GWの課題：伝記を読んで生き方を考えよう
第4回	5月16日	GWに読んだ伝記の紹介、質問をする練習
第5回	5月23日	教育実習生へのインタビューの準備、質問作り
第6回	5月30日	教育実習生へのインタビュー、インタビューのまとめ
第7回	6月6日	個人の研究テーマのアイデアを出す どのような「人」や「生き方」に関心があるか図書館で調べ学習
第8回	6月13日	個人の研究テーマを決める
第9回	6月20日	夏休みの課題：訪問先候補探し、資料集め、目上の人にインタビュー
第10回	9月12日	研究テーマ、希望する訪問先について情報交換会
第11回	9月16日	FW準備① FW訪問先候補決定、電話でのアポ依頼の下書き
第12回	9月19日	FW準備② 電話で訪問依頼の準備、質問事項作成、プレ研究準備
第13回	9月23日	FW準備③ 電話で訪問依頼、プレ研究、質問事項作成
第14回	9月26日	FW準備④ 電話で訪問依頼、プレ研究、依頼状作成
第15回	10月3日	FW準備⑤ 電話で訪問依頼、プレ研究、依頼状作成
第16回	10月10日	FW準備⑥ 依頼状完成、質問項目完成
第17回	10月23日	FW準備⑦ 依頼状完成、行程表づくり
第18回	10月28日	FW準備⑤ 依頼状完成、質問項目完成
第19回	10月30日	FW準備⑥ FWについて事前指導、事前研究
第20回	11月14日	FW本番
第21回	11月18日	FWまとめ、礼状書き
第22回	11月21日	研究集録執筆① 下書き1
第23回	11月28日	FWの報告会
第24回	12月12日	研究集録執筆② 清書
第25回	1月9日	研究発表会準備① 発表順・係決定、構成メモ作り
第26回	1月16日	研究発表会準備② 発表準備、提示資料・発表原稿作成
第27回	1月23日	研究発表会準備③ 発表準備、提示資料・発表原稿完成
第28回	1月30日	研究発表会準備④ 発表準備完了
第29回	2月6日	研究発表会①
第30回	2月13日	研究発表会②
第31回	2月20日	研究発表会③ 各グループ代表者が学年全体で発表
第32回	3月6日	中1が高3を囲んで話を聞く会
第33回	3月13日	1年間のまとめ、小論文

前期には生徒はそれぞれの研究テーマに基づいて図書館等で調べ学習を通して、調べたい職業に必要な資格や適性や心構えなどについて事前研究をした。後期にはこれらの職業を持つ人の生き方をまなぶため、また、これらの仕事のやりがい、苦勞、楽しいこと、大切なこと等を知るために、フィールドワークでその道のエキスパートに訪問インタビューを行った。

生徒全員が個人の研究テーマを設定して自主的に研究に取り組むことができた。生徒が選んだ研究テーマは以下の通りである。

CMプランナー、医師（人の命を預かる生き方）、医療関係の仕事、宇宙に関する仕事、音楽教師、科

学者、学芸員、楽器と関わる仕事—調律師、教育をしながら研究をする生き方、教師、警察官、研究開発に携わる生き方、建築に関わる生き方、広告に関わる仕事、国際教育をする人、国連機関で活躍する、魚の研究者、サッカーに関わる仕事、自動車デザイナー、小説家、食品に関わる仕事、心理カウンセラー、水泳選手を育てるコーチ、水族館の仕事、数学教師、スポーツ科学の研究、スポーツに関わる仕事、整形外科医、生物を研究する人、声優、世界で人の命を救う人、デザイナー、鉄道の運転指令士、動物と関わる仕事、獣医師、図書館司書、バイオリン製作者、パン屋、美術教員、人と接する仕事、人の気持ちを新しくする人、人の健康を支える

仕事。人の心によりそう仕事、人の代表になりが  
ばる人、人を笑顔にする職業、人を助ける仕事、人  
を楽しませる生き方、平和を守る仕事、弁護士、放  
射線技師、自ら会社を創った人、未来を切り開く—  
宇宙の研究者、ロボット工学。

授業では毎回学習目標を設定し、ワークシートを全員  
に提出させ、点検の上返却した。生徒は毎回の授業のプ  
リントやワークシートを各自でファイルにまとめて記録  
を残した。また、生徒はこの一年間の学習を研究集録の  
形でレポートにまとめ、自分の考えを持って、クラスで  
発表し、研究調査活動を通して得た情報を互いに共有す  
ることができた。最終回のアンケートで、生徒は入学当  
初と比べて調査研究の基本的なスキルが身についたと実  
感できる結果が出た。



教育実習生にインタビュー

### 3. 英語科と総合人間科のクロスカリキュラムの授業—バイリンガル「生き方ポスター作り」

英語科と総合人間科のクロスカリキュラムの授業とし  
て、12月にバイリンガル「生き方ポスター作り」に取  
り組んだ。これは、生徒たちがこれまでの総合人間科の  
授業や事前学習、フィールドワークなどで各自の研究  
テーマに基づいて研究した内容（生き方・職業・人生に  
おいて大切なことなど）を絵と短い言葉で発信するもの

である。一年間の学習を通して学んだ大切なことや皆に  
伝えたいことを象徴的に描く創造的な活動である。

自由に絵を描いて、英語と日本語など2つの言語で  
メッセージを入れる時にいくつかのアドバイスを与える。  
まず「ポスター」は、相手に何かを伝えるもの、訴  
えるもので、絵とメッセージで見た人に印象を与えるの  
で、絵とメッセージとの相乗効果が大切であることである。  
また、2つの言語のメッセージは同じ言葉の繰り返しで  
はなく、ストーリーがあり発展性があるものがある  
ことである。例えば仏語でPatissier（洋菓子職人）と  
書いて日本語でも「パティシエ」と同じ意味の言葉を書  
くのは好ましくない。良い例としては、仏語でPatissier  
と書いたら日本語で「幸せを創り出す」と書いて、イメ  
ージがふくらむものがある。他に良い例としては、日本語  
で「研究者」と書いたら英語でSearching for the Truth  
（真実を探究する）として、2つの言語の相乗効果で発  
展性があるものがある」と指導する。ポスター作成の活動  
のために英語の授業の2時間を費やして、下書きのメッ  
セージの確認と添削を行い、生徒たちは葉書用紙に清書  
した。こうして生徒たちが12月に作成したポスターは  
1月に出版された研究集録の表紙を飾った。



研究集録の表紙を飾った生徒たちのポスター作品

### 4. 課題と考察

課題としては、総合人間科の学習がその時間内では足  
りず、ソーシャルライフやホームルームなどの時間を総  
合人間科の学習に費やしたことがあげられる。総合人間  
科の活動が初めての生徒たちに、一つ一つ指示を与えて  
丁寧に指導していくために相当な時間とエネルギーが必  
要であった。電話で訪問依頼をしたり、訪問依頼状や訪  
問のお礼状を書いたりする活動は11月には放課後毎日  
行った。また、研究をまとめ、発表する段階でも放課後  
の活動が必要であった。

学年末に総合人間科の目標と学習課題の達成度をアン  
ケート形式で調査した。それぞれの目標や学習課題につ



いて1～5の数値で達成度を記入して、その平均値を得た。実際に得られた数値は、1に近いほど達成度の平均値が高くなるのであるが、以下の表では、分かり易くするために、1→5、5→1と数値を逆転させて6－平均値の値を載せている。従って、数値が高いほど達成度の平均値が高くなる。

総合人間科の目標	平均値
A.身近な人から初対面の人まで様々な人との対話から、多様な考えがあることがわかった。	4.49
B.自分が興味・関心のある職業の人にフィールドワークを行い、未来を模索する上で参考にし、生き方や職業を深く理解する姿勢を身につけることができた。	4.41
C.総合人間科の学習に必要なとされる基本的な能力（調べ方、アポの取り方、質問の仕方、メモの取り方、手紙の書き方、まとめ方、発表のしかたなど）を身につけることができた。	4.24
D.自分が興味関心のあることについて筋道を立てて探究することができるようになった。	3.97
E.自分の興味・関心と社会とを結びつけることができた。	3.65
F.中学生としての人に対するマナー（電話の掛け方、手紙の書き方、話の聞き方など）を身につけることができた。	4.31
G.自分で目的地へ行く方法（交通経路・運賃の調べ方、時刻表の見方など）を身につけることができた。	4.28
H.情報の収集と活用法（本やインターネットでの調査、スクラップブック作り、インタビューのしかたなど）がわかった。	4.06
I.調べたことを表現すること（発表会、討論のしかた、レポートなど）ができるようになった。	3.82
J.生徒同士でお互いの評価を公平な態度で行い、アドバイスをしあうことができた。	3.76

次に、総合人間科の学習課題について、入学した4月の頃と、一年間の学習を終えた3月現在とを比較した。すべての学習課題において、学年末には「わかっている」「できるようになった」という向上が見られた。

実際に得られた数値は、1に近いほど達成度の平均値が高くなるのであるが、以下の表では、分かり易くする

達成度を数値で記入

1. あてはまる
2. ややあてはまる
3. どちらともいえない
4. あまりあてはまらない
5. あてはまらない

ために、1→5、5→1と数値を逆転させて6－平均値の値を載せている。従って、数値が高いほど達成度の平均値が高くなる。

総合人間科の学習課題	4月頃	現在
1.個人の研究テーマを決める方法がわかっている。	2.61	4.32
2.図書、新聞、雑誌、インターネットなどで調べる、研究調査の方法がわかっている。	3.32	4.50
3.電話で訪問インタビューの依頼をする方法がわかっている。	2.04	4.36
4.訪問先に送る依頼状の書き方がわかっている。	1.88	4.47
5.フィールドワークにおいて自分の目的を達成するための効果的な質問を準備することができる。	2.51	4.03
6.インタビューの時に聞きたい事柄を、どのような順番で質問すればよいかわかっている。	2.73	4.27
7.インタビューの時の相手の答えを聞いて、さらに聞きたいことが思い浮かんだとき、どのように質問すればよいかわかっている。	2.77	4.14
8.インタビューや人の話を聞く際に、どのようにメモを取ればよいかわかっている。	2.90	4.26
9.フィールドワークのお礼状の書き方がわかっている。	1.81	4.44
10.発表原稿を書く際、今までの経験や調べた内容など、様々なことをふまえて自分の考えをまとめることができる。	2.77	4.12
11.発表では、自分の考えていることを正確に伝える原稿を書ける。	2.74	3.90
12.発表では自分の思うことをあわせてきちんと話すことができる。	2.65	3.68
13.発表のための掲示物を作る際、わかりやすくするために工夫を凝らすことができる。	2.92	4.05



伝記を読んで情報交換

以下に記述式アンケートで得られた回答の中から、一定の割合でみられた回答を紹介する。

「1. 研究を通じて分かったこと、考えたことは何ですか？」という問いに対して：

- \*フィールドワークに行って現実の厳しさと世界の広さを感じた。小学校と中学校しか知らなかった私に素晴らしい世界の存在を知らせてくれた。この世界に新しい芽を出せるように努力したいと思う。
- \*教師は素晴らしい職業だと思って研究テーマを選んで調べたら、すごく大変で色々なことを考えなければならないと分かった。自分には向いてないかもしれないと思った。今後は「教師」とは関わらず、たくさんの仕事を知り、自分に合ったものを見つけたいと思う。

「2. あなた自身の研究を振り返って、反省や課題はどんなことですか？」という問いに対して：

- \*今回は理系について研究したが、文系もきっといい職業があるはずだから、もっと目線を上げ、職業に対する関心をさらに深め、視野を広げて、いつか自分が本当に向いている職業を見つけて目指したい。
- \*本やインターネットで調べたらわかることをインタビューで聞かないようにして、インタビューをもっと密度のあるものにしたいと思った。質問を十分に考えて行ったがすぐ終わってしまって時間がもったいなかった。相手の答を聞いて、その場で次の質問を考えたりすることができなかった、事前研究をしっかりと、次回はその場で質問ができるように頑張りたい。
- \*事前研究は大事だと思う。フィールドワークでインタビューをするにあたって、事前研究は幅広く、ある程度深くやらないと、インタビューの時に話についていけなかったりして、相手に失礼であると思った。
- \*中学生の今は、職業に向けて特に何かするより、学校の授業をしっかりと受けた方がいいと言われたのでまじめに取り組むたい。

「3. 総合人間科の授業の中で一番印象に残ったプログラムとその理由」という問いに対して：

- ①保護者へのインタビュー：まだ質問を考えるのが下手だったころの自分の質問で保護者の方が返答に困っているのをよく覚えている。知らない保護者の方と交流することができてインタビューの良い練習になった。「人生で一番うれしかった事はなにか」と聞いたときの答えが皆「子どもが生まれたとき」と同じだった。



保護者へのインタビュー

- ②高校3年生の話聞く会：先輩の話は胸に響いた。すごく参考になった。自分の進路や今の暮らし方、勉強の仕方など様々なことを振り返ることができた。また今後の自分の生き方の良い手本になった。一人一人の考えがしっかりしていて、私もこんな先輩になりたいと思った。先輩は自分が好きなことの道に進む大切さを教えて下さって、自分がどんな道に進むと楽しみを見つめることができるかを想像した。自分も挑戦したい。今のままではいけないということを知ることができ、勇気をもらうことができた。学校で自分の好きなことを見つけて思いっきり頑張りたいと思った。
- ③フィールドワーク：初めて一人で出かけていってインタビューをする活動でとても緊張したけれど、大きな経験になった。将来必ず役に立つものだったと思う。自分の憧れの夢の職業の人と話すことができて本当にうれしかった。将来の自分づくりにとても役立った。
- ④研究発表：今回のように本格的なプレゼンは初めてだったので難しかったけれど、皆のプレゼンを見て聞いて、どのようにすれば相手によく伝わるかということがわかった。

「4. 総合人間科で学んだ様々な研究方法の中で将来に役立つものはありましたか。」という問いに対して：

- \*電話での訪問依頼や依頼状、お礼状はいつになっても必要だと思う。この一年間でテーマの内容を深く掘り下げて考える力と、マナーやルールを身につけることができた。また広い視野も身についた。とても役に立つ授業ばかりだったので大切にしていきたい。面白くて楽しい時間だった。
- \*最初は中学1年生でこんな大人のようなことができるのかなととても不安でした。色々なことが初めてだったので難しいと感じることもありましたが、先生や友だちや両親からのサポートで無事に総合人間

科の課程を修了できたことがとてもうれしいです。

\*どの活動も初めてで不安ばかりでしたが、総合人間科は自分を尊重できる授業でした。研究したいことを自分で決めて、自分で調べて、みんなで発表して、どれも楽しかったです。今はやりきった達成感が大きくて、本当に色々なことを学んだと実感しています。来年はもっと頑張りたいです。

\*一年間、自分の興味のあるテーマで調べることで、より深く理解できたし、一つ一つの活動を終えるごとに、少しずつ社会に出て行っても大丈夫な自分に近づいたと思います。

③フィールドワーク：初めて一人で出かけて行ってインタビューをする活動でとても緊張したけれど、大きな経験になった。将来必ず役に立つものだったと思う。自分の憧れの夢の職業の人と話すことができ、本当にうれしかった。将来の自分づくりにとても役立った。

④研究発表：今回のように本格的なプレゼンは初めてだったので難しかったけれど、皆のプレゼンを見て聞いて、どのようにすれば相手によく伝わるかということがわかった。

「4. 総合人間科で学んだ様々な研究方法の中で将来に役立つものはありましたか。」という問いに対して：

\*電話での訪問以来や依頼状、お礼状はいつになっても必要だと思う。この一年間でテーマの内容を深く掘り下げて考える力と、マナーやルールを身につけることができた。また広い視野も身についた。とても役に立つ授業ばかりだったので大切にしていきたい。面白くて楽しい時間だった。

\*最初は中学1年生でこんな大人のようなことができるのかなととても不安でした。色々なことが初めてだったので難しいと感じることもありましたが、先生や友だちや両親からのサポートで無事に総合人間科の課程を修了できたことがとてもうれしいです。

\*どの活動も初めてで不安ばかりでしたが、総合人間科は自分を尊重できる授業でした。研究したいことを自分で決めて、自分で調べて、みんなで発表して、どれも楽しかったです。今はやりきった達成感が大きくて、本当に色々なことを学んだと実感しています。来年はもっと頑張りたいです。

\*一年間、自分の興味のあるテーマで調べることで、より深く理解できたし、一つ一つの活動を終えるごとに、少しずつ社会に出て行っても大丈夫な自分に近づいたと思います。

以上の記述式アンケートの回答では、類似した回答が一定数みられた。

生徒の学習活動の中で、総合人間科は、次に何をすればよいかという課題がはっきり分かっている一方で、その課題を達成するのにかなりの労力と時間とサポートが必要である。フィールドワークの行き先が決まった時、時候の挨拶を入れて丁寧な依頼状が書けたとき、フィールドワークの行程表を作り、インタビューが無事に終わったとき、お礼状が書けたとき、研究集録の原稿が書き上がったとき、そして研究発表が終わったときには、生徒たちは大きな自信と達成感を得ることができ、次年度はもっと上手にできるように頑張りたいという意欲を持って総合人間科を終えることができた。

保護者やインタビューを受けてくださる方々の協力無しには総合人間科の教育プログラムは成り立たない。多くの方々の協力に感謝している。また、中1担当教員の抜群のチームワークで、教員団が密にコミュニケーションをとり、それぞれが特技を発揮して、互いに技量を高め合いながら本年度の総合人間科を実施することができたことは大きな成果であった。

(文責：仲田恵子)